

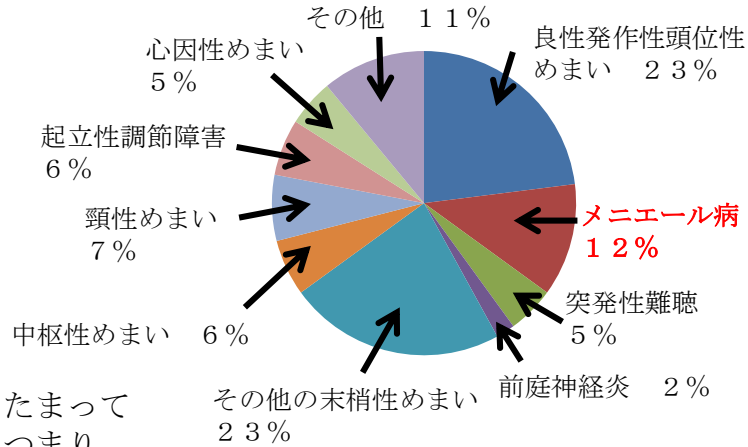
メニエール病

メニエール病という病名はめまいの病気としてお聞きになった方も多いと思います。しかし、めまいの原因となる病気として一番多わけではありません。

右のグラフのようにメニエール病は**約1割強**です。

メニエール病の病態について次にご説明します。

めまい疾患の頻度

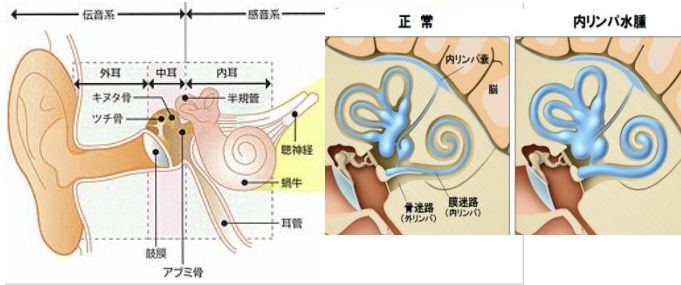


■メニエール病に内耳の状態について

まずメニエール病は内耳の病気です。

内耳にはもともとリンパ液と言われる液体がたまっています。このリンパ液が過剰になっている、つまり

水ぶくれ状態（**内リンパ水腫**と言います）になっているのがメニエール病です。しかし、なぜ内リンパ水腫が起こるのかは、はっきりしたことはわかっていません。



■メニエール病の特徴について

メニエール病の頻度は人口10万人に対して15~18人とされており、特に30~40歳代の女性に多いと報告されています。

症状は**回転性めまい**です。メニエール病のめまいは、少しじっとしていればすぐに治まるわけではなく、**比較的長い（数分~数時間）**です。さらに耳の詰まった感じや難聴、低い音の耳鳴りなど、**耳の症状を伴う**ことがほとんどです。また、このような**めまい発作を繰り返し起こす**のが特徴と言えます。

■治療について

めまい発作の時には、**安静にしていることが必要**ですが、めまい止めの頓服や鎮静剤を使用することもあります。

また、内リンパ水腫の改善のためにイソバイド（イソソルビド）という浸透圧利尿薬を内服したり、内耳循環改善薬、ビタミンB12、などを併用します。また、ステロイドを使用することもあります。このような治療で徐々にめまい、耳の症状ともに改善していきます。

しかし、症状が繰り返し起こるのが特徴ですので、日常生活において過労、睡眠不足、ストレスを避けるように注意してください。

■低音障害感音性難聴について

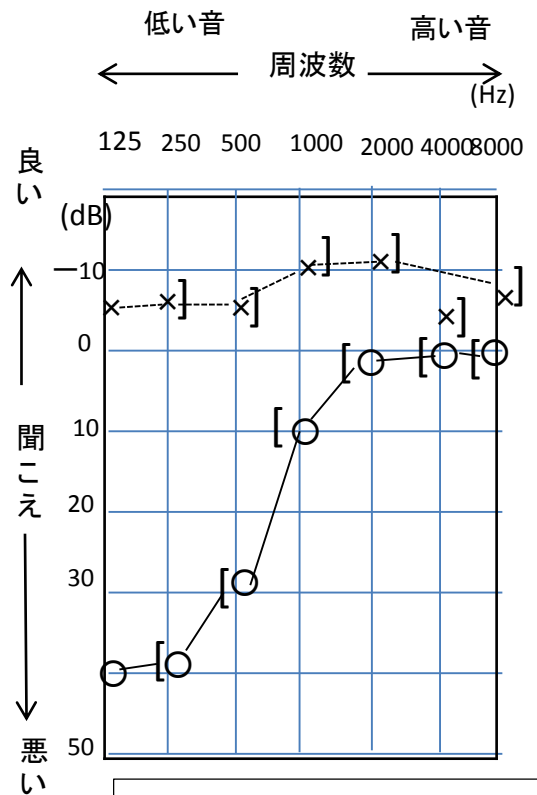
低音部の感音性難聴のみで、めまいはありません。
難聴は低音部のみですので、実際に聞こえが悪いという
感じではなく、耳がふさがった感じや“ブーン”という
低い音の耳鳴りを感じる

場合もあります。

この場合は低音部のみの特発性難聴なのか、めまいの
ない型のメニエール病なのかを区別することは難しい
ことがあります。

難聴を反復して起こす場合は、めまいのない型のメニ
エール病（蝸牛型メニエール病）の可能性が高くなり
ます。また、めまいを伴いメニエール病確実例へ移行
する場合があります。

治療は特発性難聴と同じようにステロイドを使用するか、
メニエール病のようにイソバイドを使用するか、
どちらかです。



メニエール病、低音障害
感音難聴の聴力像（右耳）

右耳の気導聴力を示す○と骨導
聴力を示す [がともに低音部で
グラフの下の方に移動し、感音
難聴であることをわかる。